

## (第 84 回) KS クラブ議事メモ

開催日	2018 年 7 月 10 日 (木)	出席者 敬称略	西村二郎、坂下勲、山崎博、大谷宏、松村眞、持田典秋、小林浩之、猪股勲、宮本公明、飯塚弘、神田稔久 (文責)
時間	15:00~17:00		
場所	かながわ県民センター		
資料	鎌倉、鎌倉を中心とした年表 (持田典秋)		
議題	<p>1. 技術課題</p> <p>1) 鎌倉</p> <p>資料に基づき、地理地形上の特徴や時代ごとの鎌倉の変遷が紹介された。特に、室町以降の衰退 (農業と漁業の村) と江戸以降の観光地としての鎌倉の復活が、一般に知られていない鎌倉紹介となっている。</p> <p>また、関東大震災での壊滅的被害も紹介されて、現存する殆どの建物が、再建されたものであることが紹介された。</p> <p>発表者からのコメント</p> <p>1) 調べてゆくと、鎌倉を襲った地震・津波がいかに多かったか、またそれによる被害も甚大なものにのぼるということがよく分かった。しかし、それにもめげず、再建を繰り返したのは驚きであった。今度は、テーマを地震だけに絞って、もっと深く追求してみたい。</p> <p>2) 発表では触れなかったが、鎌倉にもかつて杉本城というお城があった。鎌倉幕府成立以前に作られている。鎌倉時代においては、一応城郭の体はなしていたようだ。南北朝時代 1337 年、北朝方が敗れ、城兵は悉く討ち死にし落城。城の遺跡は、杉本寺の境内の一部に残るのみ。城のあった大蔵山は、個人の所有であるため、立ち入ることができない。</p> <p>3) 鎌倉時代の人口が約 600 万人と推定されることから、「新田義貞の軍勢が 60 万人に膨れ上がった」ということは、とんでもないホラ話と言えよう。</p> <p>参加者からのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関東大震災でほとんどの寺社が潰れたということには意外で、驚いた。(よくぞ復興した)</li> <li>・ 鎌倉は近くて出かけることが多いが、高齢の女性好みのプチ観光地という気がするし、全体に暗い感じがする。もっと歴史を前面に出した意義付けをした観光地でありたい。(小林)</li> </ul> <p>私の居住している伊豆は鎌倉とは深い繋がりがある。源頼朝は平家により伊豆の韮山に配流され、そこで旗揚げし、いわば鎌倉幕府創設の出発地である。そのためか、『吾妻鏡』によると、頼朝は三島社 (大社) に領地をたびたび寄進している。また、韮山は頼朝を支援した北条家の居住地であり、伊豆の願成就院は初代執権北条時政が建立した北条家の氏寺である。近くには、看板がなければ気が付かないが、北条政子の「産湯の井戸」が残されている。将軍職を剥奪された 2 代将軍頼家は伊豆修善寺の修弾寺に幽閉、暗殺されている。この暗殺への母親の政子の関わり、頼家に対する愛情を書いた物語『椎の花香る』(小長谷建夫作) の演談をたまたま昨年 6 月に願成就院で聞く機会があった。時代が下って室町時代の末期、鎌倉公方として鎌倉に入ることができなかった堀越公方は、伊豆に堀越御所を作り居住した。その御所は願成就院の近くの北条氏邸が使われたと言われている。2 代堀越公方茶々丸は、今川氏の軍勢を従えた後北条家の伊勢宗端 (後の北条早雲) により滅ぼされ (ただその血筋は京の足利将軍家に繋がっている)、この事件は伊勢宗端が伊豆に覇権を築ききっかけとなった。鎌倉の成就院も伊豆の願成就院も同じ北条氏によって建立された。(飯塚)</p>		

鎌倉が天然の要害であったがために歴史に名を残す主要都市になったものの、市域が狭く戦国時代以降の経済の中心都市になれなかったことがよくわかった。ただ、都市の繁栄のポイントは、軍事や経済から政治、さらに文化や観光と変遷するのでそれに合わせて栄枯盛衰が起こるのも必然かもしれない。だとすると、これからの横浜や東京の繁栄ポイントはなんだろう？と考えさせられる。(宮本)

鎌倉が天然の要害であったがために歴史に名を残す主要都市になったものの、市域が狭く戦国時代以降の経済の中心都市になれなかったことがよくわかった。ただ、都市の繁栄のポイントは、軍事や経済から政治、さらに文化や観光と変遷するのでそれに合わせて栄枯盛衰が起こるのも必然かもしれない。だとすると、これからの横浜や東京の繁栄ポイントはなんだろう？と考えさせられる。(宮本)

- ・ 鎌倉には昔からお寺が沢山あったと推定される。しかし、当時は観光客なんて少なかっただろう。では、坊さんは何で生計を立てていたのだろうか。
- ・ 鎌倉では明治の初めの廃仏棄釈運動が激しくなかったように見受けられた。何故だろうか。(西村)

お寺は、上は將軍から下は武士個人から、寄進された土地を持っていました。それを小作人に貸し、そこからの収入が大きかった様です。当然寄進するにはそれなりの理由があったようです。それは遠隔地のケースも多く、人を雇って小作人を管理したりしていました。(持田)

参加者コメント、  
海側から真っ直ぐに鶴岡八幡宮に伸びる若宮大路は頼朝が妻政子の安産を祈願して自ら設計したとされるが、その方位は真北から東に27°傾いている。宮元健次氏は著書「鎌倉の庭園」で、図1のように元鶴岡八幡宮→若宮大路→鶴岡八幡宮→今泉不動尊→浅草寺→筑波山を結ぶと、真北から東に27°傾いて一直線上に並ぶレイラインの存在を指摘している。

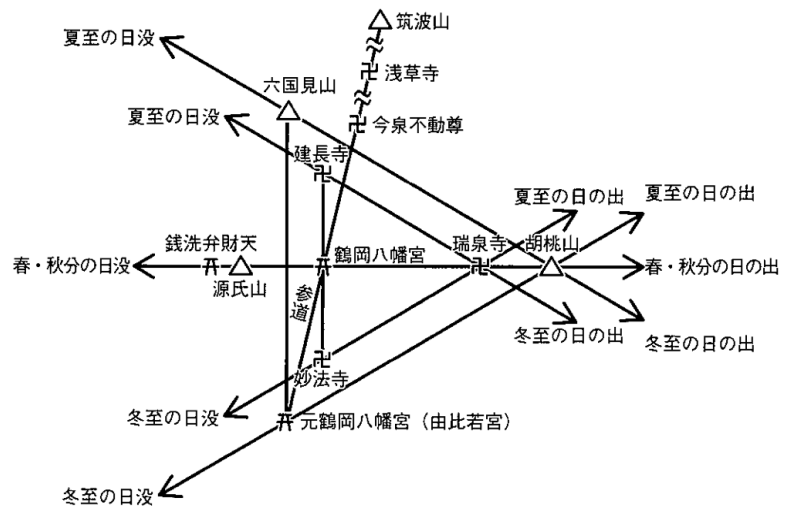


図1 鎌倉の自然暦概念図 (出典：宮元健次「鎌倉の庭園」P.33)

今泉不動尊(称名寺)は、弘法大師空海によって開かれたという霊場で自然豊かな聖地。浅草寺は、治承四(1180)年、頼朝が平家追討に向かうため浅草の石浜に軍勢を揃えた際、参詣して戦勝を祈った寺。鶴岡八幡宮造営に際しても、浅草から宮大工を召している。筑波山は古事記の時代から霊山とされ、古代山岳信仰に始まる国内屈指の古社、筑波山神社がある。建久二(1191)年、頼朝は筑波山神社に参詣し神領を寄進している。したがって、筑波山から若宮大路に連なる方位は、頼朝にとって極めて重要なかつ神聖な場所を連ねたレイラインの可能性が高い。なお、図1の、鎌倉の寺社の位置と自然暦との関係を頭に入れておくと、季節ごとに自然を楽しむ鎌倉散策の助けとなる。

(山崎)

2. 新メンバーの参加  
今回から、大谷宏さん・飯塚弘さんが正式メンバーとして参加されることになった。

3. 幹事会関連報告  
パンフレットの改定と伴う神奈川研究会の紹介部分の修正について意見交換を行い、宮本さんがメールで修正意見を調整してまとめることとした。

4. 今後の予定  
8月14日 神田氏  
9月11日 松村氏  
10月9日 JALグループ安全啓発センター見学

11月13日 山崎氏  
12月11日 猪股氏

10月の見学会の日程は、8月1日の予約開始後に決定する。  
行う場合はSCE. Netの交流会として開催することを検討する。また、終了後に小林氏からのコメントの場を設けることも検討する。

2018年8月14日（火）15:00-17:00

1. 技術課題 神田氏
2. その他

2019年9月11日（火）15:00-17:00

1. 技術課題 松村氏
2. その他